

正 誤 表

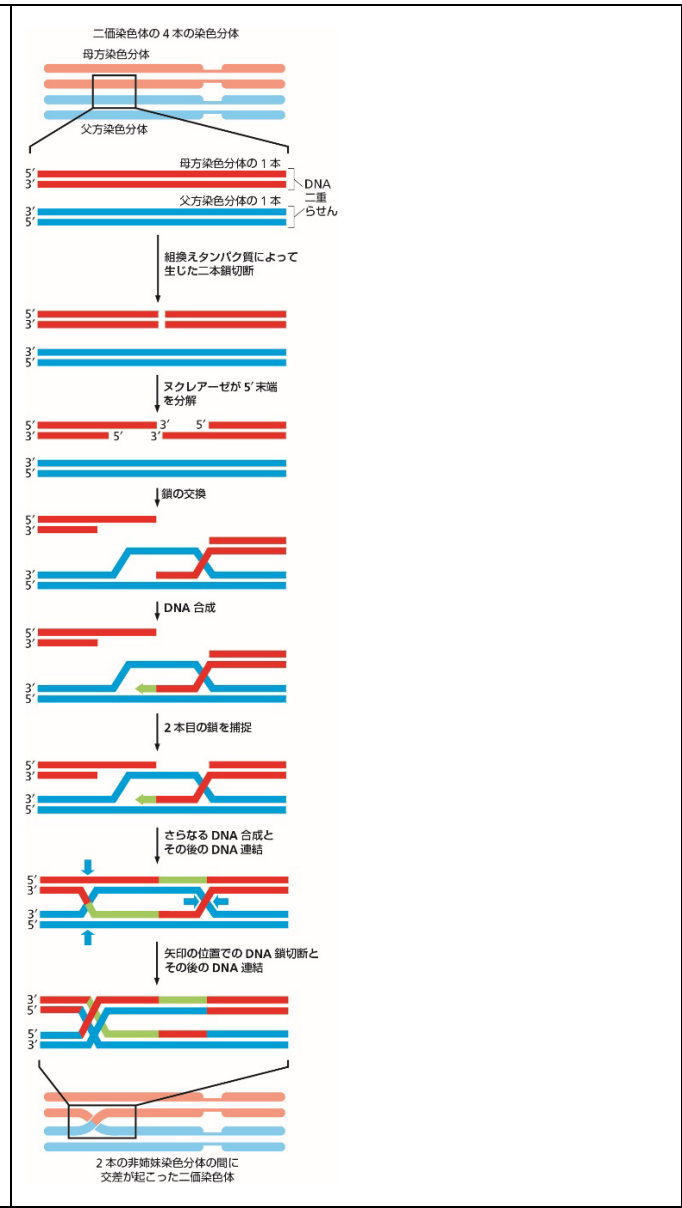
「Essential 細胞生物学（原書第5版 第1刷）」

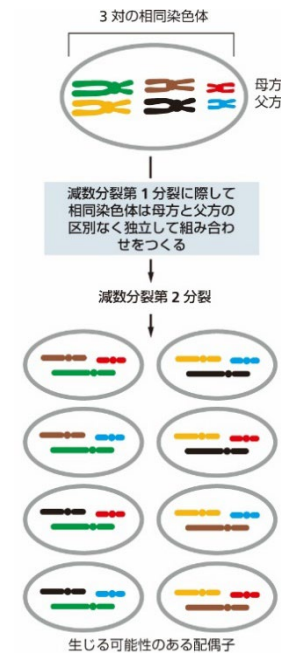
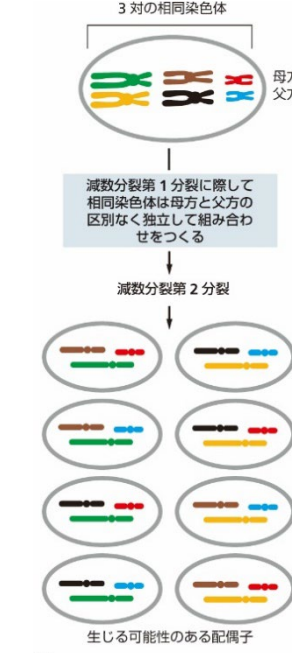
下記の箇所に誤りがございました。謹んでお詫びし訂正いたします。

頁	該当箇所	誤	正
48	表 2-1	ファンデルワールス引力（分子当たり）	ファンデルワールス引力（原子当たり）
83	3 行目	閉鎖系	孤立系
84	6 行目, 11 行目	閉鎖系	孤立系
88	1 行目	酸化	還元
94	パネル 3-1 左下「反応の予測」	スクロース→グルコース+フルクトース -2.3kJ/mol	スクロース→グルコース+フルクトース -23kJ/mol
139	下から 2 行目	基質 substrate とよばれる複数のリガンドと	基質 substrate とよばれるリガンドと
142	図 4-34 図説の下から 2 行目	基質分子との間で	基質分子内で
187	問題 5-2 の 4,5 行目	核（直径 6mm）	核（直径 $6\mu\text{m}$ ）
221	2 行目	Rad52	Rad51
288	7 行目	転写後	翻訳後
288	下から 9 行目	転写抑制因子	翻訳抑制因子
471	26 行目	電位受容体	電子受容体
473	図 14-22 縦軸	1 電子あたりの自由エネルギー変化	1 電子あたりの自由エネルギーの相対値
577	10 行目	細胞質にある中間径フィラメントは	中間径フィラメントは
613	14 行目	pp.630~631 の「解明への手がかり」参照	pp.615~616 の「解明への手がかり」参照
626	図 18-18 図中文字	コヒーシンの輪	コンデンシンの輪

図 19-9

差し替え



661	図 19-15 (A)	 <p>3 対の相同染色体</p> <p>母方 父方</p> <p>減数分裂第 1 分裂に際して 相同染色体は母方と父方の 区別なく独立して組み合わ せをつくる</p> <p>減数分裂第 2 分裂</p> <p>生じる可能性のある配偶子</p> <p>(A)</p>	 <p>3 対の相同染色体</p> <p>母方 父方</p> <p>減数分裂第 1 分裂に際して 相同染色体は母方と父方の 区別なく独立して組み合わ せをつくる</p> <p>減数分裂第 2 分裂</p> <p>生じる可能性のある配偶子</p> <p>(A)</p>
664	下から 6 行目	分離して伝わる	独立に伝わる
676	9 行目	集団で摂食するのではなく単独で摂食する個体を	単独で摂食するのではなく集団で摂食する個体を
735	解答 1-4 の 4 行目	5×10^{14} 世代	9.198×10^{13} 世代
768	解答 13-15B の 4 行目	ケト基にはなくメチレン基に移動していることもわかる	ケト基だけではなくメチレン基にも移動していることもわかる (コハク酸が対称的な分子であるため、ケト基とメチレン基のいずれにもなりうることに注意すること)
807	脱分極の解説	膜電位の切り替えて、細胞の内側の電位を負に傾ける。	膜電位の変化で、細胞内側の膜電位の負の値が小さくなる (ゼロに近づく)。